

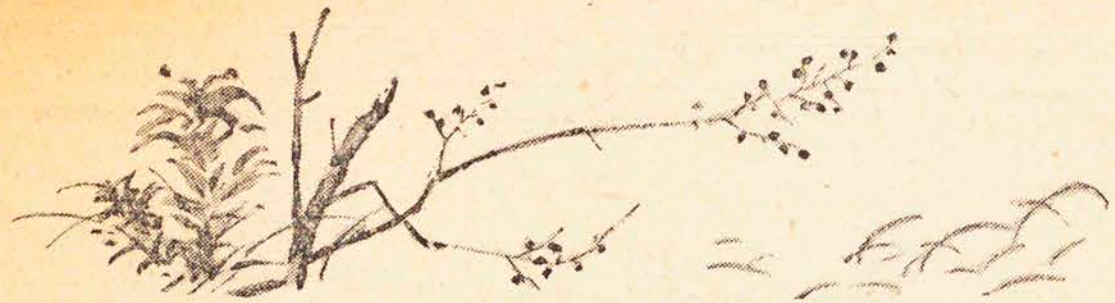
ひめまつ



1951

3

須賀學園生徒會誌



いつの間に萌え出たのだろう……けさ、何気なく庭先に出て見たら、ほんのちよつぱり青い芽、あかい芽が黒土の割れ目から地上をのぞいていた。……この間の雨で安心して出て来たのだナと自分はずいぶん感づいたが、もうこれでいよいよ長い冬、寒波ともお別れだ、とホツとした。今年は何年にもない長い冬だつた。ドリヤやグラジオラス、カンナなどの球根を埋めつ放しにしておいたので、冬中氣にかゝつていたが、この分ではどうやら大丈夫だナと安心もした。それにしてもえらい強靱な生命力だナと毎年のことながら心うたれる。また、この季節がくると「ひめまつ」の原稿を書かなければならないのも、私の楽しい年中行事の一つとなつた。

今年度は、本校にとつて、誠に意義深い年であつた。一九五〇年に本校創立五十周年の式典が重つたのだ。霜雪の五十年、本校の礎は築かれた、という感じである。盛大な式典だつた。私は校長として生きてこの光榮に恵まれた喜びに不覺にもむせび泣いた。ほんとうにそれ程の感激だつたのだ。私はこの感激を心の奥深く蓄えて、さらに本校の發展のために身をささげる決意を新たにした。

五十周年を迎えてもう一つの私の感想は、いつまでも若くありたいということだ。堅實な基礎の上に立つて心は永遠に若くありたいという意味である。いたずらに年を重ね、身も心も若むしてしまつてはどうにもならない。若くあれ、美しくあれ。

寒さにもめげず、今朝すく／＼と大地へ頭をもたげた草花の芽のように、若々しく強くあれ。校門を去つて行く人達にこの言葉をばなむける。

巻頭言

學園長 須賀友正

目次

巻頭言 學校長 須賀友正 1

創立五十周年記念

祝 辭	天野 貞祐 吳 文 炳	2
	小平 重吉 佐藤和三郎	
	長澤末次郎 小 島 政 子	
追頌の辭	猪 瀬 清	

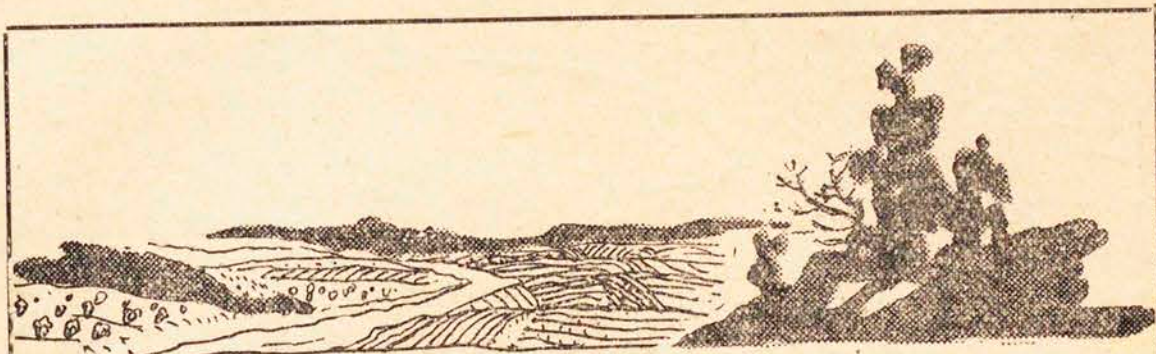
第三回 バザール 記 録	10
短 歌 渡 邊 甲	9
	岩崎 益子 9
	岸 純子 15
	須賀 華子 22
	大根田キン 32
	渡邊ユキエ 33
	坂本 文子 33

僕の見たスポーツ	土 岐 榮 22
「美」と君達	鈴木伊三夫 34
庭 訓	岸 純子 35

私達の歌集	16
私達の文集	23
私達の詩集	18
私達の句集	36

校友會便り 33 職員住所録 36 編集後記 表紙・前川宏





特 集
創立五十周年記念

祝 辭

宇都宮須賀高等學校がこのたび創立五十周年を迎え本日意義深い文化の日を期してはえある創立記念式を舉行されます事は慶賀に堪えないところであります。思うに本校は明治三十三年須賀榮子女史によつて創立され共和裁縫教習所にはじまるのであります。由來私立學校の經營には容易ならぬ困難の伴うことがほとんど通例であります。ことに本校は女史の獨力により當市に於ける最初の私立學校として發足したものと聞きますので女史をはじめ本校關係者の方々の努力精進によつて年とともに堅實なる發展を遂げ、すでに八千名に餘る卒業生を育成して女子教育の上に多大の貢獻をいたされたのであります。さきに戰災にあい校舎の全部を焼失しましたがその後順調に復興して高等學校及中學校の機構を整え本日この式典をあげられたことはまことに慶賀に堪えないと同時に本校教育のために一生をさげられた須賀女史をはじめ關係者各位の建設の功に對し深く感謝の意を表するものであります。あらためて申すまでもなく中學校は義務教育完成の段階であり、高等學校は中學校の教育を更に發展擴充して國家及び社會のよき形成者を育成するための教育機關であつて、兩者相待つて新しい學校体系の中核をなすものであります。ことに新憲法下女子の社會的地位の向上に伴い女子教育の將來には幾多の新しい課題とともに一層重要性

が加えられたのであります。この時にあたつて女子教育五十年の傳統を誇る本校が本日この式典をあげて今後の發展を期せられることはその意義まことに深しと申すべきであります。どうか教職員各位及び生徒の皆さん方におかれては本日を機會に感謝報恩の心を新にし全校一致ます／＼校風の發揚につとめもつて本校教育の目的を達成されるよう切に希望いたす次第であります。

昭和二十五年十一月三日

文部大臣 天野 貞 祐

祝 辭

宇都宮須賀高等學校が本日文化の日を期して、創立五十年記念式典を舉げられるのを心からお喜び申し上げます。そも／＼我が國の私立學校は、官公立學校に比較して甚だしく不利な立場に置かれてゐるにも拘らず、われ／＼の文化と教育の向上に對して非常なる貢獻をしており、我國教育の一半を擔うといつて過言でないのであります。これは私學教育者の眞摯なる熱意によるものといえましよう。

而して本校の如きは正に此の事實の最も卓れたる典型であります。明治卅三年、當時の天長節の佳節に發足した共和裁縫女塾は創立者須賀榮子女史の文字通りなる獨力、經營によつて發展に發展を重ね、五十年の風雪を凌いで今日の斯の如き學園となつたのであります。女史の名は、全國的に鳴り響いてゐることは敢えて申しません。併し、關東名族の裔なる女史は若くて志を教育に立て、其のすぐれたる教育者としての資質と、力強い經營者としての才幹とをもつて教勢を張り、須賀女塾の名聲は全栃木縣下はおろか、隣縣にも普く、子女の躰を重んずる地方名家に於ては、安んじて愛娘を女史の膝下に託し、日常茶飯常任座臥の間、女史の徳風に薫習せしめんことを求めたのであります。整備せる寄宿舎に起居する多數生徒の存在は、實にこれを證して餘りあるものでなければなりません。私は此處に、眞の私學教育理想の具現したる姿を目の邊りすることを感ぜます。これこそ我々私學教育者が目標として努力している境地なのであります。一婦人の身を以つて、八千五百に達する卒業生と一千に垂んとする在學生を擁する現在の學園を創設發展せしめられた女史と、これを扶けてよくこの大を

なし、母堂なき後を承けて傳統を益々光輝あらしめておられる嗣須賀友正校長の御苦心が並大抵のものでなかつた事は、充分お察し申上げるのでありますが、それらの御苦心が凝つて今日の輝かしい祝典となつたことを考えるとき、私は、日本全私學の聲として心からなる御同慶の祝辭を贈るものであります。それと共に又一面、本校の精神とと校風に共鳴して、從來の社會風潮であつた官尊民卑の空氣に影響せらるゝことなく、職を本校に奉じて生徒の訓育に従事せられた教職員各位、及び最愛の子女を本校に託された父兄各位、並びに本校に聲援を送られた地方一般人士に對して、私は全私學の名に於て、心からなる感謝の辭を捧げたいと思います。思うに、今私學は自由清新な立場に立つて、興隆すべき絶好の機會に恵まれております。此の秋に當つて、全學園が創立者、須賀榮子女史の理想に向つて、自主獨往八千五百名に上る、堅實なる女性地方指導層を育成した光輝ある傳統の發揚に努められ、私學の聲望を、更に高めることによつて、力強く新日本の發展に寄與せられんことを念願して今日の盛典を祝する言葉と致します。

祝辭

昭和二十五年十一月三日
日本私學團體總聯合會
會長 吳 文 炳

本日こゝに須賀高等學校創立五十周年記念式典を舉行するに當り祝辭を申述べる機會を得ましたことは私の深く喜びとするところであります。申すまでもなく眞に民主的な文化國家の建設を培う根元は、教育の力でありまして、私立學校が栃木縣における教育の一半を擔い、多年にわたつて人材の育成文化の興隆に寄與貢獻された功績は誠に大なるものがあつたと申さねばなりません。須賀高等學校は明治三十三年十一月三日、家庭科を中心として獨自の教育理想を實現せんとする須賀榮子先生の熱烈な意志によつて共和裁縫女學校として縣の認可を得てより、宇都宮の須賀さんとして縣民に知らるゝに至り、その後、須賀女學校、宇都宮女子高等職業學校、須賀高等學校と、幾多の變遷を経て現在の新制高等學校になつたのでありまして、其の間、卒

業生總數八千四百、併設の須賀中學、家庭専門部を加うる時、教職員四〇、在校生一千に垂んとする縣下有數の一大學園となつたのであります。これ偏に創立者須賀榮子現校長須賀友正兩氏並に教職員父兄各位が協力一致してその振興發展に努力された賜物と深甚の謝意を表する次第であります。由來私立學校は官公立のそれに比し行政財政兩方面にわたつて恵まれること極めて薄く、殊に戦後の私學は戦災と經濟狀態の激變の爲に校地校舍施設等の運営面授業料その他の學費等々、當面する問題が多くありましてこの間における經營者の御苦心御努力は決して並大抵のものでなかつたことゝ信ずるのであります。縣においてもこの實狀を察し併せて多年の功績に報いると共に將來の振興、助成の爲に年々多大の困難を排して相當額の經費を支出して参つたのでありますが、幸に第六國會において、新に制定公布せられた私立學校法によつて私學に公費助成の道が開かれ、行政面に於ける私學審議會制度免稅等私學の自主性と公共性が明示されたことは私學の前途のためまことに欣慶に堪えざるところであります。この法律は、私學によつて立つべき根本を明にした土台でありまして、此の土

台の上に如何なる建築を實現するかは今後の私學關係者の双肩に掛つて居る責任であります。私學關係者は一致協力して自主性、公共性を十二分に生かし充實した内容ある私學教育という大殿堂を築くことでなくてはならぬと存じます。私學の本領はいうまでもなくその獨自の學風によつて特色ある教育の成果を十分に發揮するところにあるのであるから、今後は私立學校法を活用されて本校の内容を充實し五十年の傳統である個性教育の徹底に意を注ぎ、教育機關として文化事業としての使命達成に精進されて益々縣民の信頼に應えられんことを切望してやみません。こゝに祝意を表すると共に洋々たる須賀高等學校の前途の多幸を祈つて祝辭といたします。

昭和二十五年十一月三日

栃木縣知事 小平 重吉

祝辭

菊花薫る今日、こゝに本校創立五十周年記念式典が舉行されるにあたりまして一言祝辭を申し述べる機會を得まし

たことは私の最も欣快とする所であります。本日は本校の創立記念日に當り五十周年を迎えられた譯でありますが一口に五十周年と云いまして過去を顧み、現在を考え、又將來に思いを馳するならば其の間幾變遷、明治三十三年共和裁縫所の昔より須賀學園の大をなした今日までを顧みます時に、學校當局の方々といたしましては誠に感慨無量と御察する次第でありまして、其の間の經營上の御苦心に對しましては深く敬意を表する次第であります。

申すまでもなく終戦後の日本は民主主義の下、眞正なる文化國家を建設しなくてはなりません。文化國家の建設には文化の長足の進歩が先決條件であり、これには學校教育の擴充が絶対に必要であり、こゝに於て學校の重要性は愈々倍加されて參りました。

希くは學校當局におかれましてはこれまでの豊富なる經驗を生かし、益々機能を充實され文化國家建設のため御努力あらんことを切望して已まない次第であります。

また本校に學ばれる生徒の方々には由緒ある本校に學ばれることを深く肝に銘じて學業に精勵し立派な社會人となられんことを御願ひする次第であります。

簡單でありますが一言述べて御祝の言葉にかえさせて頂きます。

昭和二十五年十一月三日

宇都宮市長 佐藤和三郎

祝 辭

意義深き文化の日茲に本校創立五十周年記念の式典が舉行せられますに當りまして不肖席末に列り本學園理事を代表して一言所懐を述べて祝意を表する機會を得ました事は私の最も光榮とするところであります。抑も本學園は明治三十三年初代校長須賀榮子先生が獨力を以て共和裁縫學校を創立せられ、爾來先生の高潔なる人格と卓拔なる意見を以て其經營に粉骨碎身の功を積まれ、よく時代々々の要求に應ずる組織と其内容施設の改善に心血を注がれました結果、こゝに極めて特色ある私立學校を創り出され、殊に實科中心の堅實なる教育方針が一般世人の非常なる歡迎を受け「須賀さん」なる愛稱のもとに本縣私學界に重きをなすに到りましたが、その遺業を受け繼がれた現校長亦よく本

校の傳統的精神を生かし百方苦心經營に當られたために、年と共に隆運を重ねて今日の盛大を見るに至つたのであります。創立以來五十星霜、本校が終始一貫女子教育の第一線に立ち、或は女子實業界に或は家庭に幾多有爲の婦人を送り出しているのでありまして本縣女子教育界に貢獻されたことは非常なものであります。私はこの機會に須賀榮子先生の赫々たる遺業を頌え偲ぶと同時に、現校長其他關係各位の不斷の御努力に對して甚深なる感謝敬仰のまことを捧げたいと存じます。思うに我國過去の女子教育は放任にあらざれば閑却、永い間その重要性が無視せられて來たのであります。一面に於て新奇輕佻浮薄の風潮があるかと思えば、他面に於ては保守抑壓舊套墨守して顧みない傾きがあつたのであります。女子教育界のかゝる風潮のうちにあつて本學園の當事者各位が恒によく中正を持ち、女性個有の性情に基く實務的教養と研究とを教育の主目標に置かれて來た事は、誠に穩健妥當の態度でありまして、まさに女子教育の本道を行くものというべきであります。希くは本校に職を奉ずる者本校に學ぶもの業を本校に卒えたものはこの學風を益々助長して新時代に即應し、今回の式典を契

機としていよ／＼校運の隆昌に力を致され、内容外觀共に一大飛躍を期せられんことを切望に堪えません。茲に本學園の傳統と業績を偲び併せて前途を祝福し以て祝辭に代える次第であります。

昭和二十五年十一月三日

須賀學園理事代表

長澤末次郎

祝 辭

菊花薫る文化の日、茲に本校創立五十周年記念の盛大なる式典を擧げられ、多數貴賓の御來臨を辱うし、剩れ數々の御祝詞を賜りましたことは、私達のまことに感激に堪えないところであります。顧みますと前校長須賀榮子先生が崇高なる御理想を以つて、共和裁縫女學校を創立せられてより、年を閱すること實に五十年、其の間、戦災のため校舍焼失の打撃を蒙りましたが、舊にまさる見事な復興忽ちに成りまして、校運は日を逐うて隆盛に赴き、卒業生を出すことに實に八千餘名にのぼり、千名近くの在校生を抱擁す

る一大學園の實現を見るに至りました。このように本校が縣下にも誇り得べき學園として、今日の盛大を致すに至りましたのは、偏に創立者たる初代校長先生の先見の明と高潔なる御人格の發露の然らしめたものであり、其教育方針が極めて實際的で家庭の生活に直ちに役立ち得る着實温健な學風が、社會の歡迎するところとなつたことに由るものと確信致しますが、又其遺業を受繼がれた現校長先生並びに諸先生方の並ならぬ御努力御苦心の賜物と心から感謝に堪えません。と同時にかゝる光輝ある歴史と傳統とを有する本校に學ぶ私共の幸福と誇りとを沁々と感ずるのでございます。然し光榮の存するところ、責務之に伴うと申します。私達は今日の盛儀に列する喜びを味うにつけ、今後の半世紀の新しい第一步を踏み出す覺悟を新たに、いたさねばならぬと存じます。創立以來脈々として傳承されて來た穩健中正な立派な校風をこの新しい時代の女子教育の中に生かし、これを益々醇美にし、堅實なものにして行く重責を擔つてゐるという自覺を高めるよい機會であることと思ひ、先輩の方々に負けず劣らず、新時代の婦人としての教養を益々高め益々深め、人間完成への熱意に燃えて一

致團結、より明るい學園の建設に全力をつくす覺悟でございます。これが過去半世紀に亘つて本校のため多大のお骨折を頂いた數多くの方々への御厚志にお酬いする所以であると信じます。今日の式典に當り、喜びのあまり生徒一同を代表し、謹んで御祝辭を申述べ併せて覺悟の一端を披瀝致しました次第でございます。

昭和二十五年十一月三日

須賀學園生徒會長

小島政子

追 頌 の 辭

顯氣清英の節、本校創立五十周年記念式典を舉ぐるに當り初代校長須賀榮子先生の御靈前に感謝追頌の誠を捧げて白さく、先生夙に女子實務教育の要を痛感せられ初めて共和裁縫女學校を創設せらるゝや、卓絶せる識見と高潔なる人格とを以つて夙夜匪懈辛苦經營、身を以て生徒の訓化に膺り、婦徳の涵養と婦功の習熟とを教育の根本方針となし以つて穩健中正なる學風を樹立せられしかば、よく世の要

五十周年記念式典に當りて

渡 邊 甲

歩み來し道はるかなり表彰の喜びにわれはまなこ満しぬ
そのかみのわが教え子と語らふにわれはふと寂しやはひ知らされ

教へ子におくる

叱られしことも心にとめるなと思ひひをめしこともありしが
美しく幸あれと祈るなる折々は來よわれを訪ねて

五十周年記念式にて

岩 崎 益 子

わが名呼ばれ表彰文の高々とうつゝにきゝつ涙さしぐむ

別るゝ子らにおくる

わが子よといとほしみにし受持ちの子らよひとすぢ誠にてあれ

櫻花匂ふ朝の喜びをとほに秘めつゝ共に生きばや

求に適い、その高風を慕いて來り學ぶ者四方より雲集し本校盤石の基礎茲に定まる。名利を卻け榮達を求めず一生を育英事業に捧げられし先生が、五十年前創業の古を憶ひ赫々たる不朽の功績を偲びまつりて愈々追慕欽仰已み難きものあるを感ず。今や校運日を遂うて隆昌、卒業生を出すこと實に八千を數え、一千名に垂んとする在校生徒を擁する一大學園として發展、縣下私學の殿堂として重きを成するに至る。之れ偏に先生の遺せる教育熱愛の御精神の資に外ならず、茲に今日の祝典を舉ぐるに當り、先生の御靈前に恭しく供物を奠え以て其遺績を偲び感謝追頌の微忱を捧げんとす。

冀くば來り饗け給わんことを。

昭和二十五年十一月三日

須賀學園PTA會長

猪 瀬 清